



Sun™ ハードウェア Solaris™ リファレンスマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 817-1873-10
2003 年 4 月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品のの一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、Sun StorEdge、Sun Enterprise Network Array は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Solaris on Sun Hardware Reference Manual Supplement
Part No: 817-1872-10
Revision A



目次

はじめに v

1. 保守コマンド

envmond(1M) 2

rscadm(1M) 4

sunvts(1M) 9

vts_cmd(1M) 11

vtsk(1M) 18

vtsprobe(1M) 20

vtstty(1M) 23

vtsui(1M) 26

2. ファイル形式

envmond.conf(4) 28

索引 31

はじめに

このマニュアルには、サンのハードウェアを使用しているユーザーに対して提供される Solaris 9 ソフトウェア製品のリファレンスマニュアル (マニュアルページ) が含まれています。このマニュアルは、『Solaris 9 リファレンスマニュアル』に記載されているマニュアルページを補足するマニュアルです。この版には、Solaris 9 4/03 リリースで改訂されたマニュアルページの内容が含まれています。

man コマンドを使用してこのマニュアルに記載されている情報を参照するには、事前に、当該 Solaris リリースに対応する Solaris Software Supplement CD からソフトウェアをインストールする必要があります。通常、Solaris Software Supplement CD からソフトウェア製品をインストールすると、当該ソフトウェアのマニュアルページが含まれているパッケージも自動的にインストールされます。マニュアルページのインストール方法の詳細については『Solaris 9 Sun ハードウェアマニュアル』を参照してください。

注 - サプリメントCD に収録されているマニュアルページの一部は、各製品向けのリファレンスマニュアルに含まれています。これらマニュアルページは『Sun ハードウェア Solaris リファレンスマニュアル』には含まれていません

マニュアルの構成

このマニュアルでは、マニュアルページを下記のカテゴリごとにアルファベット順に記載しています。

- 保守コマンド (1M)
- ファイル形式 (4)

下記の製品のマニュアルページが含まれています。

- Sun Remote System Control (RSC): `rscadm`
- SunVTS™ 診断ソフトウェア: `sunvts`, `vts_cmd`, `vtsk`, `vtsprobe`, `vtstty`, `vtsui`, `vtsui.ol`
- Netra™ t サーバー用環境モニターソフトウェア: `envmond`, `envmond.conf`

書体と記号について

このマニュアルで使用している書体と記号について説明します。

表 P-1 このマニュアルで使用している書体と記号

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を実行します。 <code>% You have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	<code>% su</code> Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	<code>rm filename</code> と入力します。 <code>rm ファイル名</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	<code>% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`</code>

シェルプロンプトについて

シェルプロンプトの例を以下に示します。

表 P-2 シェルプロンプト

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールの表題にはマニュアルの Part No. (817-1873-10) を記載してください。

なお、現在日本語によるコメントには対応できませんので、英語で記述してください。

第1章

保守コマンド

名前	envmond — 環境モニターデーモン
形式	/usr/platform/SUNW,UltraSPARC-IIIi-Netrtract/lib/envmond/ sparcv9/envmond [-d] [-f ファイル] [-g 頻度]
使用条件	SUNWcteux
機能説明	<p>envmond デーモンはシステム環境監視デバイスをポーリングし、調整行為が必要とされるような状態を調べます。そのためにデーモンは Solaris の初期起動時に構成ファイルを読み込み、どの環境デバイスを監視するかを調べます。各構成ファイルのエントリにはポリシーとして参照される環境デバイスが記述されており、サポートされているポリシーのエントリは envmond.conf(4) ファイルに記述されています。</p> <p>envmond デーモンは syslogd(1M) を経由してシステムログファイルにメッセージを記録します。</p> <p>envmond デーモンは SIGHUP シグナルを受け取ると構成情報ファイルを再読み込みします。</p>
オプション	<p>-d デバッグモードに設定します。envmond はデーモンとしてではなく、フォアグラウンドで実行され標準入出力を引き継ぎます。エラーおよび警告メッセージは syslogd(1M) には記録されず、標準出力に書き出されます。</p> <p>-f ファイル 代替の構成ファイルのパスを指定します。</p> <p>-g 頻度 ポーリングの間隔を指定します。デフォルトは 10 秒です。</p>
ファイル	<p>/usr/platform/SUNW,UltraSPARC-IIIi-Netrtract/lib/envmond/ sparcv9/envmond</p> <p>実行可能デーモン</p> <p>/usr/platform/SUNW,UltraSPARC-IIIi-Netrtract/lib/envmond/ sparcv9/*.so</p> <p>envmond ポリシー</p>

/platform/SUNW,UltraSPARC-III-Netractor/lib/envmond.conf

envmond 構成ファイル

関連項目

syslogd(1M), envmond.conf(4)

注意事項

envmond ポリシーはシステムの I2C デバイスから環境情報を取得します。

このデーモンはプロトタイプのため予告なく変更する可能性があります。

名前	rscadm — SUN™ Remote System Control (RSC) の管理
形式	<pre> rscadm help rscadm resetrsc [-s] rscadm set <i>variable value</i> rscadm download [boot] <i>file</i> rscadm show [variable] rscadm date [-s] [[mmdd]HHMM mmddHHMM[cc]yy][.SS] rscadm send_event [-c] <i>message</i> rscadm modem_setup rscadm useradd <i>username</i> rscadm userdel <i>username</i> rscadm usershow [username] rscadm userpassword <i>username</i> rscadm userperm <i>username</i> [cuar] </pre>
機能説明	<p>rscadm は SUN™ Remote System Control (RSC) を管理します。ホストサーバーが RSC と対話できるようにします。以下の操作がサポートされています:</p> <pre> rscadm help 使用法の画面を表示します。 rscadm resetrsc RSC をリセットします。実行できるリセットには、「ハード (hard)」リセットと「ソフト (soft)」リセットの 2 種類があります。デフォルトではハードリセットが実行されます。ソフトリセットは -s オプションを使用して選択できます。 rscadm set RSC 設定変数を設定します。RSC 設定変数の例としては、RSC IP アドレスや RSC ホスト名があります。RSC 設定変数の全一覧は、RSC のマニュアルを参照してください。 </pre>

<code>rscadm download</code>	RSC のファームウェアをプログラムします。ファームウェアには、起動監視と主イメージの 2 つの部分があります。デフォルトでは、 <code>rscadm</code> は主ファームウェアイメージをダウンロードします。 <code>boot</code> オプションは起動監視のプログラミングを選択します。
<code>rscadm show</code>	現在の RSC 設定変数の設定を表示します。変数が指定されないと、 <code>rscadm</code> はすべての変数設定を表示します。
<code>rscadm date</code>	RSC の時刻と日付を、表示または設定します。 <code>-s</code> オプションは RSC の時刻と日付をホストの時刻と日付に設定するために使用できます。
<code>rscadm send_event</code>	RSC にテキスト形式のイベントを送信します。RSC がイベント設定を基に、イベントを転送することがあります。
<code>rscadm modem_setup</code>	RSC モデムへの直接接続です。これはモデム設定のためにユーザーが AT コマンドを入力できるようにします。“~” でプロンプトに戻ります。
<code>rscadm useradd</code>	ユーザーアカウントを RSC に追加します。RSC は独立した 4 ユーザーまでをサポートします。
<code>rscadm userdel</code>	ユーザーアカウントを RSC から削除します。
<code>rscadm usershow</code>	指定されたユーザーアカウントの詳細を表示します。ユーザー名が指定されないと、すべてのユーザーアカウントが表示されます。
<code>rscadm userpassword</code>	指定されたユーザーアカウントのパスワードを設定します。このパスワードは現在設定されているどのパスワードも上書きします。新

しいパスワード設定の前に古いパスワードを
いっさい確認しません。RSC のマニュアルで
正しいパスワード形式を参照してください。

rscadm userperm

ユーザー用の認証プロファイルを設定しま
す。詳細はマニュアルページの `userperm` の
説を参照してください。

オプション

以下のオプションが `rscadm` でサポートされています:

rscadm resetrsc

`[-s]` 「ハード」リセットの代わりに「ソフト」リセットを実行し
ます。ハードリセットは RSC ハードウェアを物理的にリセッ
トします。ソフトリセットでは、リセットをまねて、RSC ソ
フトウェアが起動ファームウェアに制御を移します。

rscadm download

`[boot]`

起動モニターのフラッシュの場所をプログラムします。フ
ラッシュの主な位置は、通常はプログラムされます。

rscadm show

`[variable]` 特定の変数の値を表示します。

rscadm date

`[-s]` ホストの時刻と日付を設定します。

`[[mmdd]HHMM | mmddHHMM[cc]yy][.SS]`

日付です。

`mm` - 月

`dd` - 日

`HH` - 時

`MM` - 分

`cc` - 西暦 (4 桁表示) の上 2 桁

`yy` - 西暦の下 2 桁 (十の位と一の位)

`SS` - 秒

rscadm send_event

[-c] 重要なイベントを送信します。-c なしだと、send_event は警告を送信します。警告は RSC イベントログにのみ記録され、他に転送されません。

rscadm usershow

[username] 情報を表示する RSC アカウント名です。ユーザー名の指定がなければ、すべてのアカウントが表示されます。

rscadm userperm

[cuar] RSC アカウントのアクセス権を設定します。アクセス権の指定がないと、4 つのアクセス権すべてが使用不可になります。オプションには、ユーザーにコンソールの接続を許可 (c)、ユーザーに RSC アカウント修正のためのユーザーコマンド使用を許可 (u)、ユーザーに RSC 設定値の管理・変更を許可 (a)、ユーザーに RSC のリセットとホストの電源投入・切断を許可 (r) があります。

オペランド

以下のオペランドが rscadm でサポートされています:

rscadm set

variable 設定する RSC 設定変数です。設定変数の一覧は、RSC のマニュアルを参照してください。

value RSC 設定変数に設定する値です。正しい値の一覧は、RSC のマニュアルを参照してください。

rscadm download

file ダウンロードするファームウェアファイルです。ファイルの内容は RSC 起動監視のイメージか、RSC の主イメージである必要があります。

rscadm send_event

message イベントを記述するテキストメッセージです。引用符で囲んでください。

	<code>rscadm useradd</code>
	<i>username</i> 新しい RSC アカウント用のユーザー名です。
	<code>rscadm userdel</code>
	<i>username</i> 削除される RSC です。
	<code>rscadm userpassword</code>
	<i>username</i> パスワードを設定する RSC アカウントです。
	<code>rscadm userperm</code>
	<i>username</i> アクセス権を変更する RSC アカウントです。
終了状態	<code>= 0</code> 成功
	<code>!= 0</code> 失敗 (状態メッセージを表示)
使用例	<pre># rscadm date # rscadm date -s # rscadm date 050113101998 # rscadm set hostname rsc15 # rscadm show # rscadm show hostname # rscadm send_event -c "The UPS signaled a loss in power!" # rscadm send_event "The disk is close to full capacity" # rscadm useradd rscroot # rscadm userdel olduser # rscadm usershow # rscadm usershow rscroot # rscadm userperm rscroot cuar # rscadm userperm newuser c # rscadm userperm newuser</pre>
注意事項	<code>rscadm modem_setup - "~."</code> は改行後にのみ動作します。
	<code>rscadm</code> を <code>root</code> になって実行する必要があります。
制限事項	既知の問題点はありません。

名前	sunvts — SunVTS カーネルとユーザーインタフェースの呼び出し
形式	sunvts [-lepqrstv] [-o <i>option_file</i>] [-f <i>log_dir</i>] [-h <i>hostname</i>]
使用条件	SUNWvts
機能説明	sunvts コマンドは、SunVTS のユーザーインタフェースとカーネルを同一のシステム上で呼び出すために使用されます。ローカルシステムでユーザーインタフェースを起動し、遠隔システムの SunVTSカーネルに接続することができます。デフォルトでは、CDE 環境では CDE Motif グラフィックインタフェースを表示し、OpenWindows 環境では OpenLook グラフィックインタフェースを表示し、ウィンドウ環境以外のシステムでは TTY インタフェースを表示します。デフォルトでは、sunvts は、稼働中のオペレーティングシステム (32 ビットまたは 64 ビット) に対応する vtsk(1M) を起動します。
オプション	<p>-l SunVTS OpenLook グラフィックインタフェースを起動します。</p> <p>-e セキュリティーの確認機能を無効にします。</p> <p>-f <i>log_dir</i> 代替のログファイルディレクトリ <i>log_dir</i> を指定します。デフォルトのログファイルディレクトリ <i>log_dir</i> は /var/opt/SUNWvts/logs です。</p> <p>-h <i>hostname</i> ローカルシステムで SunVTS ユーザーインタフェースを起動し、セキュリティの確認に成功した後、指定されたホストの SunVTS カーネルに接続、または呼び出します。</p> <p>-o <i>option_file</i> 指定された <i>option_file</i> から読み込んだテスト用オプションで SunVTS カーネルを起動します。デフォルトのオプションは /var/opt/SUNWvts/options に格納されています。</p> <p>-p テストシステムのデバイスを調査しないように指定して SunVTS カーネル vtsk(1M) を起動します。</p> <p>-q テストが停止した場合に、SunVTS カーネルとユーザーインタフェースの両方を自動的に終了します。</p> <p>-s 選択されたテストグループからテストを自動的に開始します。このフラグは、-o <i>option_file</i> フラグとともに使用する必要があります。</p>

	-t	CDE または OpenLook インタフェースの代わりに、TTY ベースのインタフェースである vtstty(1M) を起動します。
	-v	vtsui(1M) と vtsk(1M) のバージョン情報を表示します。
注意事項		vtsk(1M) がテストシステムですでに動作している場合、sunvts コマンドは、-e、-o、-f、-q、-p、-s オプションを無視します。
関連項目		vtsk(1M), vtstty(1M), vtsui(1M), vtsui.ol(1M), vtsprobe(1M)

名前	vts_cmd - SunVTS カーネル (vtsk) へのコマンドの送信
形式	vts_cmd [コマンド] [引数]
使用条件	SUNWvts
機能説明	<p>vts_cmd(1M) は、1 つのコマンドを SunVTS カーネル (vtsk) へ送信する UNIX シェルアプリケーションです。テスト対象のシステムの SunVTS カーネルは、標準出力に応答を送ります。</p> <p>SunVTS アプリケーションプログラミングインタフェース (API) は、文字ベースで設計されています。つまり、(コマンドの) 文字列を SunVTS カーネルに送信できるということです。このとき SunVTS カーネルも文字列の形式で応答します。</p> <p>vts_cmd では UNIX のコマンド行で、コマンドの発信や応答の受信を行うことができます。</p>
オプション	<p>vts_cmd は、以下にリストしたコマンドを使用します。いずれの場合でも vts_cmd に続けてコマンド (コマンドによっては引き数が必要) を指定します。使用方法については、「使用例」を参照してください。</p> <p>以下にリストしたコマンド記述の一部は、テストノードについて言及していません。SunVTS API には、システムを頂点として、各テストグループがその下に位置し、底辺には個々のテストがあるという、テストノードの階層があります。以下のコマンドの説明では、システムについては、スラッシュ("/") で表記します。テストグループは以下の名称のいずれかになります。それぞれ、Processor(s)、Memory、Network、SCSI-Devices(esp0)、Comm.Ports、Graphics、OtherDevices、その他のユーザーの指定したグループです。個々のテストは具体的なデバイス名やテスト名 (例: sound0(audio)) で表記します。</p> <p><i>list testnode</i></p> <p>指定した <i>testnode</i> 以下にあるすべてのテストノードの表示。</p> <p><i>config testnode</i></p> <p><i>testnode</i> で指定したテストノードの構成情報の表示。</p>

`status [testnode] [-r]`

システムのテスト状態情報の表示。*testnode* が指定されている場合は、そのテストノードの状態情報が表示されます。`-r` オプションを指定すると、すべてのテストノードの状態情報が再帰的に表示されます。

`option [testnode] [-l] [-h|n|s|t|a]`

いずれも、指定したテストノードに関連しているすべてのオプションを表示します。または、指定したオプションをテストノード中に設定します。

テストノードのオプションを表示するには、テストノードに続いてオプションを指定し、以下のカテゴリの 1 つを入力してください。

- `-h` Threshold
- `-n` Notify category
- `-s` Scheduling category
- `-t` Test execution category
- `-a` Advanced category

`vts_cmd` は全オプション、さらには各オプションの設定を出力します。`-l` オプションを指定すると、オプションの内容を省略全設定の説明付きで表示されます。

`option [testnode] [test_option] [-g|s|x|y|z]`

- `-g` このオプションは、指定されたテストのインスタンスへの現在のオプション設定を、同じグループにあるすべての別のグループにあるものには適用されません。
- `-s` このオプションは、指定されたテストのインスタンスへの現在のオプション設定を、(`-g` オプションのようにグループに対してではなく) そのシステムにある同じテストすべてに対応する全インスタンスに適用します。

- x このオプションは、指定されたテストのインスタンスへの現在のオプション設定を、そのテストに属するすべてのインスタンスに適用します。
- y このオプションは、指定されたテストのインスタンスへの現在のオプション設定を、ある特定のグループに属するすべての同じテストの全インスタンスに適用します。
- z このオプションは、指定されたテストのインスタンスへの現在のオプション設定を、全システムのすべての同じテストの全インスタンスに適用します。

オプションを設定するには、*testnode* のすぐあとに *option* と *setting* を指定する必要があります。以下のような書式で使用します。

```
vts_cmd option testnode[option:setting]
```

オプションの変更が成功すると、vts_cmd によって "DONE" と表示されます。

select *testnode*

テストノードを選択します。テストノードが選択されると、そのテストノードに関連付けられている全てのテストが実行可能になり、テスト開始時に実行されます。

たとえば、**Graphics** テストノードを選択した場合、すべてのグラフィックス関連テストが実行可能になります。"fpu(fputest)" テストを選択した場合は、このテストだけ実行可能になります。

deselect *testnode*

テストノードを選択解除します。テストノードが選択解除されると、そのテストノードに関連付けられている全てのテストが実行不可能になり、テスト時に実行されなくなります。

たとえば、**OtherDevices** テストノードを選択解除した場合、**OtherDevices** に該当するすべてのテストが実行不可能になります。"cgsix0(cg6)" テストを選択した場合は、このテストだけ実行可能になります。

start

実行可能な (選択された) すべての SunVTS テストを開始します。

stop

実行中のすべての SunVTS テストを停止します。

suspend

実行中のすべての SunVTS テストを中断 (または一時停止) します。テストを再開したい場合は、"resume" と入力してください。

resume

中断中のテストを再開します。

reset

すべての SunVTS テストをリセットし、エラー回数をゼロにします。

probe

テスト中のシステム上の全デバイスを調べ、SunVTS カーネルのデバイスリストを更新します。

もしリスト上のデバイスが、この検査で確認できない場合、そのデバイスはリストから削除されます。反対に、リストにないデバイスが検査中に発見された場合、そのデバイスはリストに追加されます。

load *option_file*

オプションファイルを読み込みます。ファイルが読み込まれるとシステムやオプションの設定は、そのオプションファイルの設定に変更されます。

オプションファイルは、/var/opt/SUNWvts/options ディレクトリに保存されます。

store *option_file*

システム情報とテストオプションがリストされたオプションファイルを作成します。作成されたファイルは、/var/opt/SUNWvts/options ディレクトリに保存されます。

quit

SunVTS カーネル (vtsk) を終了します。

invokeds

テスト手順スケジューラを起動します。

quitds

テスト手順スケジューラを終了します。

loadseq *sequence_file*

シーケンスファイルを読み込みます。ファイルが読み込まれると、テスト手順スケジューラユーザーインタフェースに、シーケンスファイルに記録されたタスクが反映されます。

storeseq *sequence_file*

すべてのタスクがリストされたシーケンスファイルを作成して、
/var/opt/SUNWvts/sequences ディレクトリに保存します。

statusseq

現在実行中のシーケンスの状態情報を含む文字列を返します。この文字列はコンマ (",") で区切られた 4 つのフィールドから構成されます。それぞれ、SunVTS の現在の状態、現在のシーケンスのループ回数、シーケンスの全ループ回数、現在実行中のタスクの位置です。

startseq

テスト手順スケジューラのタスク実行を開始します。

stopseq

シーケンスファイル中の現在実行中のタスクを停止します。再開時には、停止した時点のタスクから再実行されます。

resumeseq

シーケンスファイルの実行を再開します。シーケンスがリセットされていない限り、再開時には、停止した時点のタスクから再実行されます。シーケンスがリセットされた場合は、シーケンスファイルの先頭から実行が開始されます。

resetseq

シーケンスファイルの実行開始ポイントを先頭に設定します。またテストパスやエラー回数もリセットされます。

suspendseq

シーケンスファイル中の現在実行中のタスクを中断します。

removeseq *sequence_file*

`/var/opt/SUNWvts/sequences` ディレクトリにあるシーケンスファイルのリストから、*sequence_file* で指定したファイルを削除します。

listtask

現在読み込まれているシーケンスファイル中のタスクのリストを表示します。

addtask *task_name* [*i*]

task_name で指定したタスクを、シーケンスファイルの *i* 番目の位置に追加します。指定した位置に達していない場合、タスクはリストの末尾に追加されます。

deletetask [*i*]

選択したシーケンスの指定した位置にあるタスクを削除します。

loadtask *task_name*

タスクファイルを読み込みます。ファイルが読み込まれると、システムやオプションの設定は、そのタスクファイルの設定リストに従って変更されます。

setloopcount *count*

現在実行中のシーケンスのループ回数を *count* に設定します。

getvtsmode

SunVTS カーネルの現在のモード情報を取得します。

使用例

テスト中のシステムの構成情報を表示するには、以下のように config コマンドを使用します。

```
sample% vts_cmd config /  
/[Hostname:sample,Model:SPARCstation-10,SunVTS version:1.0]:idle
```

オプションファイルを読み込むには、以下のようにして load コマンドを使用します。

```
sample% ls /var/adm/sunvtslog/options  
CPU_options          sample          options  
sbus_standard  
sample% vts_cmd load sbus_standard  
DONE
```

Comm.Ports テストノードのすべてのシステムオプションを印刷するには、option コマンドを使用して、以下のようにパイプでローカルプリンタに出力してください。

```
sample% vts_cmd option Comm.Ports -l | lp  
request id is printer-213 (standard input)
```

環境変数

VTSCMD_HOST=*hostname*

SunVTS カーネル (vtsk) が実行されているテスト中のシステムのホスト名です。この環境変数が設定されていない場合、vts_cmd はローカルシステムの SunVTS カーネルへのコマンドの送信を試みます。

関連項目

『SunVTS ユーザーマニュアル』

名前	vtsk — SunVTS 診断カーネル
形式	vtsk [-epqsv] [-o <i>options_file</i>] [-f <i>logfile_directory</i>]
使用条件	SUNWvts
機能説明	<p>vtsk コマンドは、バックグラウンドプロセスとして SunVTS 診断カーネルを起動します。一度に動作する vtsk は 1 つだけです。スーパーユーザーだけが、このコマンドを実行することができます。</p> <p>vtsk は、通常、sunvts(1M) によって自動的に起動されます (他に動作中の vtsk がいない場合)。また、vtsk は、vtsui または vtsui.ol から接続要求がある場合に、inetd(1M) によって呼び出されます。この場合、vtsui(1M) または vtsui.ol(1M) によって指定されたターゲットホストの vtsk を実行する前に、セキュリティーファイル .sunvts_sec のアクセス権が確認されます。</p> <p>SunVTS 3.0 では、64 ビットの vtsk が SUNWvtsx パッケージに含まれています。この vtsk は、デフォルトで /opt/SUNWvts/bin/sparcv9 ディレクトリに他の 64 ビット SunVTS バイナリとともにインストールされます。SUNWvts パッケージに含まれている従来の 32 ビット vtsk は、デフォルトでは /opt/SUNWvts/bin ディレクトリにインストールされます。vtsk を通常呼び出す sunvts コマンドは、現在稼働している OS の形式 (32 ビットまたは 64 ビット) を判定し、対応する vtsk を起動します。</p> <p>/opt/SUNWvts/bin がデフォルトのインストール先ですが、パッケージのインストールプログラムで /opt/SUNWvts/bin の親ディレクトリとして別のディレクトリを指定することもできます。</p>
オプション	<p>-e すべての接続要求のセキュリティーを確認します。</p> <p>-p システム構成を調査しないで SunVTS 診断カーネルを開始します。</p> <p>-q テストが完了したときに、SunVTS 診断カーネルと接続されたユーザーインターフェースの両方を終了します。</p> <p>-s 有効になっているテストをただちに実行します。</p>

	-v	SunVTS 診断カーネルのバージョン情報を表示します。
	-o <i>options_file</i>	SunVTS 診断カーネルを開始し、 <i>options_file</i> で指定されたオプションファイルの内容によってテストオプションを設定します。
	-f <i>logfile_directory</i>	デフォルト以外の、代替ログファイルディレクトリを指定します。
終了状態	以下の終了値が返されます。	
	0	正常終了
	-1	異常終了
ファイル	/var/opt/SUNWvts/options	デフォルトのオプションファイルディレクトリ
	/var/opt/SUNWvts/logs	デフォルトのログファイルディレクトリ
関連項目	sunvts(1M), vtsui(1M), vtsui.ol(1M), vtstty(1M), vtsprobe(1M)	

名前	vtsprobe — SunVTS カーネルのデバイス調査情報の出力
形式	vtsprobe [-m] [-h <i>hostname</i>]
使用条件	SUNWvts
機能説明	vtsprobe は、SunVTS カーネルのデバイスおよび設定情報を表示するユーティリティです。出力には、SunVTS によってデバイスに割り当てられたグループ、デバイス名、デバイスインスタンス、デバイスに対応するテスト名、デバイス固有のテスト調査から得た設定情報が含まれます。
オプション	<p>-m 製造モードを特定します。製造モードは、スクリプトファイルを使用して読み取ることが容易な書式で調査情報を出力します。</p> <p>-h <i>hostname</i> 接続するホスト名を <i>hostname</i> に指定し、デバイス情報と設定情報を得ます。このオプションを指定しないと、現在のホストが指定されます。</p>
使用法	SunVTS カーネルを起動した後に、調査の出力を得るためにシェルプロンプトで vtsprobe を入力することができます。SunVTS の起動方法については、sunvts(1M) のマニュアルページを参照してください。
使用例	<p>sun4m SPARCclassic で vtsprobe を実行した場合の出力を以下に示します。</p> <pre>% vtsprobe Processor (s) system(systest) System Configuration=sun4m SPARCclassic System clock frequency=50 MHz SBUS clock frequency=25 MHz fpu(fputest) Architecture=sparc Type=TI TMS390S10 or TMS390S15 microSPARC chip Memory kmem(vmem) Total: 143120KB mem(pmem) Physical Memory size=24 Mb SCSI-Devices(esp0)</pre>

```

c0t2d0(rawtest)
    Capacity: 638.35MB
    Controller: esp0
    Vendor: MICROP
    SUN Id: 1588-15MBSUN0669
    Firmware Rev: SN0C
    Serial Number: 1588-15MB103
c0t2d0(fstest)
    Controller: esp0
c0t3d0(rawtest)
    Capacity: 404.65MB
    Controller: esp0
    Vendor: SEAGATE
    SUN Id: ST1480    SUN0424
    Firmware Rev: 8628
    Serial Number: 00836508
c0t3d0(fstest)
    Capacity: 404.65MB
    Controller: esp0
    Vendor: SEAGATE
    SUN Id: ST1480    SUN0424
    Firmware Rev: 8628
    Serial Number: 00836508
c0t3d0(fstest)
    Controller: esp0
c0t6d0(cdtest)
    Controller: esp0
tape1(tapetest)
    Drive Type: Exabyte EXB-8500 8mm Helical
Scan
Network
    isdn0(isdntest)
        NT Port  TE Port
    le0(nettest)
        Host_Name: ctech84
        Host Address: 129.146.210.84
        Host ID: 8001784b
        Domain Name: scsict.Eng.Sun.COM
Comm.Ports
    zs0(sptest)
        Port a -- zs0 /dev/term/a : /devices/ ... a

```

```

Port b -- zs1 /dev/term/b : /devices/ ... b
Graphics
  cgthree0(fbtest)
OtherDevices
  bpp0(bpptest)
    Logical name: bpp0
  sound0(audio)
    Audio Device Type: AMD79C30
  sound1(audio)
    Audio Device Type: DBRI Speakerbox
  spd0(spdtest)
    Logical name: spd0

```

注意事項

vtsprobe の出力は、SunVTS による調査が成功するように調査対象のデバイスがシステムに正しく構成されていることと、デバイス固有のテストがあることに依存します。

デバイスが正しく構成されていないか、デバイスに関連付けられた調査機能がない場合、vtsprobe はそのデバイスに関連する情報を出力することができません。

関連項目

sunvts(1M), vtsk(1M), vtsui(1M), vtsui.ol(1M), vtstty(1M)

名前	vtstty — SunVTS の TTY インタフェース
形式	vtstty [-qv] [-h <i>hostname</i>]
使用条件	SUNWvts
機能説明	vtstty は、非ウィンドウ環境における SunVTS のデフォルトのインタフェースです。システムのシリアルポートに接続された端末などの非ウィンドウ環境で使用することができます。ただし、vtstty の使用は、非ウィンドウ環境に限定されません。シェルウィンドウからも vtstty を使用することができます。
オプション	<p>-q SunVTS の終了条件が満たされたときに、自動的に終了します。</p> <p>-v vtstty のバージョンを表示します。このオプションを指定すると、インタフェースは起動されません。</p> <p>-h <i>hostname</i> <i>hostname</i> によって指定されたホスト上で動作している SunVTS カーネルに接続します。</p>
使用法	<p>vtstty 画面は、4 つのパネル (Main Control、Status、Test Groups、Console) によって構成されます。これらのパネルは、特定の機能を実行するための選択肢や情報を表示します。パネルがアスタリスクで囲まれ、現在の項目が強調表示されているときは、そのパネルは「操作対象になっている」または「選択されている」と言えます。パネルで項目を選択するには、まず、そのパネルを選択状態にする必要があります。</p> <p>パネルで選択することができる項目の種類を以下に示します。</p> <p>テキスト文字列 選択された場合、別のパネルを表示するか機能を実行する選択肢を記述します。たとえば「stop」は、SunVTS のテストを停止します。</p> <p>データ入力フィールド 数値またはテキストデータを入力または編集します。</p> <p>チェックボックス 「[]」のように表されます。チェックボックスは、対応している項目が選択されているかどうかを示します。チェックボックスは、選択されていない [] 選択されている [*] のいずれかになります。</p>

操作対象の移動、選択、他の機能の実行に関するキー割り当てを以下に示します。

TAB または <CTRL>W	操作対象を別のパネルへ移動します。
RETURN	現在の項目を選択します。
スペースバー	チェックボックスを切り替えます。
上矢印または <CTRL>U	1 項目上へ移動します。
下矢印または <CTRL>N	1 項目下へ移動します。
左矢印または <CTRL>P	1 項目左へ移動します。
右矢印または <CTRL>R	1 項目右へ移動します。
Backspace	データ入力フィールドのテキストを削除します。
ESC	表示を取り消します。
<CTRL>F	前方向へスクロールします (スクロール可能なパネルで)。
<CTRL>B	後方向へスクロールします (スクロール可能なパネルで)。
<CTRL>X	vtstty を終了しますが、SunVTS カーネルは動作を継続します。
<CTRL>L	画面を再描画します。

注意事項

1.telnetセッションから vtstty を実行するには、以下の手順に従います。

- a.telnetを起動する前に、「行」と「カラム」の値を決めます (stty(1) を参照)。
- b. telnetを実行した後に termを適切な形式に設定します (例: set term=vt100)
- c. カラムと行の値をあらかじめ決められた値に設定します (stty(1) を参照)。

関連項目

2. 端末の種類を記述する環境変数が正しく設定されていることを確認し、
vtstty を実行します。

sunvts(1M), vtstk(1M), vtsui(1M), vtsui.ol(1M), vtsprobe(1M)

名前	vtsui — SunVTS グラフィックユーザーインターフェース (CDE)
形式	vtsui [-qv] [-h <i>hostname</i>]
使用条件	SUNWvts
機能説明	<p>vtsui コマンドは、SunVTS グラフィックユーザーインターフェースの CDE Motif バージョンを起動します。実行中の vtsui には、同時に複数のインスタンスがあり、すべてが 1 つの SunVTS 診断カーネル vtsk(1M) へ接続されます。診断カーネル vtsk(1M) を実行しているホストマシン名は、グラフィックユーザーインターフェースウィンドウのタイトルバーに表示されます。</p> <p>vtsui は、sunvts(1M) コマンドによって自動的に起動されます。また、vtsui は、inetd(1M) が実行中である場合に、vtsk(1M) を起動するために使用することができます。その場合、ターゲットホスト上で vtsk を実行する前に、セキュリティーファイル (.sunvts_sec) のアクセス権が確認されます。グラフィックユーザーインターフェースの使用については、『SunVTS ユーザーマニュアル』を参照してください。</p>
オプション	<p>-q 評価が終了したら、SunVTS グラフィックユーザーインターフェースを終了します。</p> <p>-v グラフィックユーザーインターフェースのバージョン情報だけを表示します。</p> <p>-h <i>hostname</i> SunVTS グラフィックユーザーインターフェースを起動し、<i>hostname</i> 上で動作中の SunVTS 診断カーネルに接続します。SunVTS 診断カーネルが動作していない場合は、セキュリティーの確認後に SunVTS 診断カーネルを起動します。<i>hostname</i> を指定しないと、ローカルホストが指定されます。</p>
終了状態	<p>次の終了値が返されます。</p> <p>0 正常終了</p> <p>1 異常終了</p>
関連項目	sunvts(1M), vtsk(1M), vtsui.ol(1M), vtstty(1M), vtsprobe(1M)

第2章

ファイル形式

名前	envmond.conf — 環境モニターデーモン用構成ファイル
形式	/platform/SUNW,UltraSPARC-III-Netractor/lib/envmond.conf
機能説明	<p>envmond.conf ファイルは、システム環境モニターデーモン envmond(1M) 用の構成ファイルです。このデーモンはシステム環境上に存在する装置を監視し、対応が必要となる条件をチェックします。envmond(1M) デーモンは syslogd(1M) によって、システムログファイルにメッセージを記録します。</p> <p>構成ファイルの各エントリは共有オブジェクトライブラリに関する情報をデーモンに与えます。情報は装置を監視する際のポリシーとして参照されます。ポリシーの各エントリには同じ形式で、envmondデーモンとポリシー間のインタフェースを記述します。ポリシーは監視される装置だけを認識し、envmond.conf ファイルのポリシーのエントリには、policy-args フィールドに構成可能な変数を含めることができます。</p> <p>すべてのポリシーエントリは同じ形式になります。</p> <p style="text-align: center;"><i>poll-interval policy-name policy-args</i></p> <p>3つのフィールドはそれぞれ空白文字によって区切られます。<i>policy-args</i> を次の行に続けて記述する場合は、行末にバックスラッシュ (\) を使用します。</p> <p>envmond.conf ファイルの各フィールドの説明を以下に示します。</p> <p><i>poll-interval</i> ポリシーの check 関数を起動する間隔を十進数の秒数で指定します。<i>poll-interval</i> が 0 の場合は、ポリシーの check 関数は呼ばれません。</p> <p><i>policy-name</i> ファイル名。ポリシーを実行するファイルのパス名を記述します。デフォルトのポリシーファイルは以下のディレクトリに置かれます。</p> <p style="padding-left: 2em;">/usr/platform/SUNW,UltraSPARC-III-Netractor/lib/envmond/sparcv9</p> <p><i>policy-args</i> 初期化時にポリシーに渡される空白文字で区切られた引数のリスト。引数の形式や数はポリシーに依存します。</p> <p>以下では envmond(1M) に実装されているポリシーについて説明します。</p>

fancpu ポリシー fancpu ポリシーは I2C スレーブデバイスを *poll-interval* 秒ごとに監視し、現在の CPU の温度とファントレーの状態を取得します。CPU の温度が警告温度に達した場合は、警告メッセージがシステムコンソールに表示され、*syslog.conf(4)* で指定されるシステムログファイルに記録されます。CPU の温度が停止温度に達した場合は、停止メッセージが *syslogd(1M)* によってシステムコンソールに表示され、システムは *shutdown(1M)* コマンドにより停止します。ファンの状態はシステム状態ボードの LED に反映され、ログメッセージがシステムログデーモン *syslogd* に送られます。

powersupply ポリシー

powersupply ポリシーは電源装置の状態に従って、システム状態ボードの LED を点灯させます。このポリシーは電源装置の故障時の割り込みイベントにも対応します。

scsb ポリシー

システムコントローラおよび状態ボード (*scsb*) ポリシーは第一に *cPCI* スロットの状態 LED を制御する *scsb* ドライバを構成します。*scsb_led_ctrl* のデフォルト設定は *false* で、*scsb* ドライバが *cPCI* スロットの LED を制御することを示します。*scsb_led_ctrl* が *true* に設定された場合は、スロット LED の更新はアプリケーションが行います。

使用例

例 1 - エントリの例

最初の例では *powersupply* 共有ライブラリを 60 秒ごとに起動します。次の例では *scsb* ポリシーが *cPCI* スロットの状態 LED を制御するように指定します。

```
60 powersupply.so
60  scsb.so  scsb_led_ctrl=false
```

ファイル

/usr/platform/SUNW,UltraSPARC-IIi-Netrtract/

インストールディレクトリ

以下の関連パスはすべて上記のディレクトリ下にあります。

lib/envmond/sparcv9/envmond

環境デーモンの実行形式

lib/envmond/sparcv9/fancpu.so

CPU 温度とファンの回転速度制御ポリシー

lib/envmond/sparcv9/powersupply.so

電源装置モニターポリシー

関連項目

envmond(1M), syslogd(1M), syslogd.conf(4)

索引

E

envmond(1M), 2
envmond.conf(4), 28

R

rscadm(1M), 4

S

sunvts(1M), 9

V

vts_cmd(1M), 11
vtsk(1M), 18
vtsprobe(1M), 20
vtstty(1M), 23
vtsui(1M), 26

ふ

ファイル形式, 27

ほ

保守コマンド, 1

